

インクルーシブ保育の現状 (R6.7.17 現在)

【公立】個別支援

	年長	年中	年少	2歳児	合計	職員数
手帳を所持している児童	8	16	6	0	30	29.2
その他の児童 ※1	0	17	5	1	23	

※1 特に安全面で個別に近い状態で支援が必要な児童

【私立】個別支援

	年長	年中	年少	2歳児	合計	職員数
手帳を所持している児童	0	0	1	0	1	5.1 (8)
その他の児童	1	12	3	1	17	

【公立】サポート支援

	年長	年中	年少	2歳児	合計	職員数
時々サポートが必要な児童※2	30	17	34	16	97	11.4

※2 基本的には担任保育士が保育を行い、必要に応じてサポート保育士が支援する児童

(将来的に普通学級に進むことが見込まれる児童については、基本的には年長でこの支援に切り替えていく)

【私立】サポート支援

	年長	年中	年少	2歳児	合計	職員数
時々サポートが必要な児童	14	16	29	27	86	18.1

○保育支援者

- ・公立は全園に1名ずつ1日7時間勤務の保育支援者を配置。
- ・私立は現在、12園に配置。現在募集中の園が2園。乳児専門園や小規模保育事業所の中で、受入児童数がそれほど多くない園では、保育支援者を配置しない選択をしている園もある。

○医療的ケア児対応看護師

- ・高御堂中央保育園 2名(R5 から継続)、子生和保育園 2名(R6 新規)、牧川保育園 1名(R6 新規)の医療的ケア児を受け入れ、1日7時間勤務の看護師を1名ずつ配置。

○その他

- ・幼児の未歩行児童 2名(年少、年中 1名ずつ)の他、様々な疾患を持つ児童が在籍。

○保育士へのサポート体制

- ・インクルーシブ保育の考えが浸透するようフルタイム保育士に加え、短時間保育士や保育支援者にも広く学ぶ場を設け、研修を年間およそ40回計画。現在までに20回実施。
- ・保育課指導保育士が各園を巡回したり相談にのるとともに、「子育て相談室なのはな」ともタイアップしながら、課題の洗い出し等現状把握に努めている。

○他機関との連携

- ・学校教育課、子育て支援課、保育課3課合同で「架け橋期の教育充実プログラム」をモデル地域で実施。また、こども家庭センターや保健センターとの連携の在り方(しくみ作り)を調整中。さらに福祉関係機関にもインクルーシブ保育について説明し、共に学ぶ場を提供。